

# 平成30年度防災教育モデル実践事業報告書

学校名 大分県立大分支援学校

## I 学校の情報

### 1 学校規模

学級数52 児童生徒数240人（小学部90人、中学部54人、高等部103人）  
職員数137人

### 2 分掌の位置づけ

#### 【防災安全委員会】

構成員＝校長・教頭・事務長・主幹教諭・生徒指導主任・保健主任・医療的ケア担当・  
防災安全部主任

業務＝防災計画の立案、推進や安全対策の推進案審議、緊急時の対応協議

#### 【防災安全部】

構成員＝小学部3名、中学部2名、高等部5名

業務＝全校または各学部の防災管理体制の確立及び防災組織活動の整備  
防災教育の立案・実践・計画

### 3 地域環境

本校は、大分市の東部に位置する知的障がいのある子どもが通う支援学校であり、児童生徒数242名、職員数137名の大規模校である。

学校所在地の海拔は23mであるが、学校から500mのところ到大野川が流れており、大野川水系の洪水では0.5mから3.0mの浸水が想定されている。平成17年9月の台風14号による水害では、近隣の森地区が内水被害を受けている。

隣に鶴高グラウンドがあり、津波避難場所に指定されている。

## II 取り組みのポイント

県下の特別支援学校の中では、児童生徒数、教職員数共に県下最大級の学校である。

発災時には多大な混乱が起こることが予想され、二次被害を防ぐために、児童生徒・教職員に対する防災意識・知識を高めることを目的として取組を実施していきたいと考える。そのために、防災教育コーディネーターを中心として、カリキュラムマネジメントを取り入れた教科横断的な防災教育・防災研修が行われるよう、学校内の組織・体制作りをしていきたいと考える。

防災教育では、児童生徒に実践力をつけることを目標とし、主体性を持って行動できるよう、体験型学習や問題解決型学習を取り入れていく。児童生徒の実態や発達の段階に応じた防災教育の目標

を設定し、指導する内容を整理して授業実践を行っていきたいと考える。

防災研修では、防災安全の中核となる教職員が防災教育の先進地や被災地を視察し、研修して得た知識を、学校に持ち帰り、全教職員および保護者に還元する。また、災害から児童生徒の生命や身体の安全を守るため、学校における防災体制や防災教育の重要性と緊急性を十分認識し、防災に関する自らの意識や対応能力、防災教育に関する指導力が高められるよう、実践的な研修を行っていきたいと考える。

### Ⅲ 具体的な取り組み

実施時期	計画事項
4月	① 第1回避難訓練（火災）
7月	② 第2回避難訓練（地震） ③ 第1回職員研修（通学路ハザードマップ作り研修） ④ 第2回職員研修（スクールバス減災研修） ⑤ 先進地視察（関東） ⑥ 先進地視察（関西）
8月	⑦ 第3回職員研修（災害時車いす避難研修） ⑧ 第1回防災授業（小・中・高）
9月	⑨ 第1回ショート訓練 ⑩ 第4回職員研修（先進地還流報告）
10月	⑪ 第2回ショート訓練
11月	⑫ 公開研究発表会
12月	⑬ 児童生徒引渡し訓練
2月	⑭ 第3回防災教育 ⑮ 第3回避難訓練（ブラインド型）

① 第1回避難訓練（火災）4月27日

参加者 児童生徒 242名 教職員 137名

② 第2回避難訓練（地震）7月17日

参加者 児童生徒 240名 教職員 137名

③ 第1回職員研修（通学路ハザードマップ作り研修）7月24日

講師に大分県防災活動支援センター上山容江氏をお迎えし、大分市発行の「わが家の防災マニュアル」を参考に、地図上に危険箇所等の印をつけ、通学時に発災した場合にはどこに逃げればよいか、の学習を行った。

④ 第2回職員研修（スクールバス減災研修）7月24日

講師に大分県防災活動支援センター川村正人氏をお迎えし、大分市発行の「わが家の防災マニュアル」を参考に、スクールバスの運行ルート上の危険箇所や避難場所についての学習を行った。

⑤ 先進地視察（関東）7月24日～26日

埼玉県立日高特別支援学校・・・アクションカードを積極的に使用していた。保護者や地域、企業を巻き込んで防災に取り組み、日頃から教職員の防災意識が高かった。

千葉県立東金特別支援学校・・・「あたりまえ防災隊」や「防災ウォークラリー」等、児童生徒が主体となって防災に取り組んでいた。

日野市立日野第六小学校・・・PTAに「防災部」があり、保護者主体で防災に取り組んでいた。道徳の授業で防災教育を行っていた。

そなエリア東京・・・・・・・・東京直下型地震に備えた体験型施設。

⑥ 先進地視察（関西）7月30日～31日

京都府立鳴滝特別支援学校・・・自助・共助を視点に置いた防災教育。生徒が自分たちで避難所の設営をし、運営をする訓練も行われている。数学・理科等で防災教育を行っている。

⑦ 第3回職員研修（災害時車いす避難研修）8月24日

講師に大分東消防署の消防指令村上氏、山田氏をお迎えし、発災時に2階や3階から避難する場合、車いすのどこを持って避難するか、またどのような姿勢で持つのか等、ご教示いただいた。

⑧ 第1回防災授業（小・中・高）8月～9月

○防災授業（地震・津波のメカニズム）

模型やパワーポイント、動画で、地震や津波のメカニズムを学習。その後、津波クイズ・体験で南海トラフ地震が起きた際に、大分市で予想される津波高9m、津波時速36kmを体感した。

○防災授業（河川の仕組みと水害）

学校安全安心支援課の井上さんに特別講師として来校していただき、フィールドワークで大野川へ行った。川の仕組みや水害について学ぶことができた。

○防災授業（通学路ハザードマップ作り）

自力通学生を対象に通学路のハザードマップ作りを行った。大分市発行の「わが家の防災マニュアル」を参考に、地図上に危険箇所等の印をつけ、通学時に発災した場合にはどこに逃げればよいか、の学習を行った。

○防災授業（車いす避難体験）

生徒を実際に車いすに乗せて階段を昇降する体験を行った。導入では、車いすを運搬する教員と係わる時間を設け、生徒は安心して体験することができた様子だった。

⑨ 第1回ショート訓練 9月3日

大分市シェイクアウト訓練に合わせてショート訓練（15分間）を実施



⑩ 第4回職員研修（先進地還流報告）9月12日

関東方面・関西方面の先進地視察の報告を全職員対象に行った。

⑪ 第2回ショート訓練 10月24日

日程・時間の予告なしで訓練を行った。

⑫ 公開研究発表会 11月30日

県立学校・市町村立学校関係者および、教育委員会、幼稚園、大学等から40名超の参加者を迎え、本校で発表会を開催した。当日は、「防災体験ブース」「防災展示」「赤十字出前授業」「煙・起震車体験」「防災授業」「ウオークラリー」に分かれて児童生徒が活動する様子を見学し、午後は、熊本県立熊本支援学校の西雅子副校長先生に講演「防災プラスワン～今日から始めよう」をいただいた。

来場者のアンケートでは、「児童生徒が楽しそうに活動していてよかった」「生徒がとてもいきいきと発表や対応をされていて感激した」と多数のお褒めの言葉をいただいた。

⑬ 児童生徒引き渡し訓練 12月10日、12月12日

PTAの際に、児童生徒引き渡し訓練を行った。今回は、保護者に引き渡しのシステムを理解してもらうために実施した。大きな混乱もなく、訓練が実施できたが、「学部主事一人だけでは引き渡しを行うことが難しい」「身分証明書を忘れた引き受け者にはどう対応するか」等の課題が挙げられた。

⑭ 第3回防災教育 2月13日

小学部（国語）「好きなものを探して発表しよう」「防災マップを作ろう」

中学部（国語）「震災の本を読んで、今できることを考えよう」

高等部（生単）「災害時、校舎内の危険な場所について調べよう」



⑮ ブラインド型避難訓練 2月6日（リハーサル）、2月15日（避難訓練）

（1）訓練の方法：ブラインド型（付加想定） ※非常ベルは鳴らさない。

（2）災害想定：震度6～7（津波警報）、電話がつながりにくい、断水、停電

11：00～17：00までの経過

※1時間の訓練時間の中に6時間を凝縮して設定し、被害状況、避難困難者、食事、引き渡しまで次々と新たな想定が付加され、それに対応していく。

（3）訓練の目的：付加された想定に対応していくことで【課題】を見つける。

### Ⅲ 具体的な取り組み

#### 1. 施設・設備面

##### （1）現状

① 避難場所として考えられる体育館の入り口が1m弱。（混雑の原因となる）

- ② 車いすの児童生徒の教室が2階以上にあるが、スロープがない。
- ③ 体育館が狭く、全校生徒が避難する場合は、二次避難場所が分かれる。
- ④ 二次避難場所として考えられる高等部プレイルームが3階にある。
- ⑤ 重要書類（指導要録等）が入っている金庫がランチルームの上階の職員室にある。
- ⑥ 高等部棟から小学部棟までの渡り廊下が狭い
- ⑦ 一次避難場所として考えられるグラウンド奥が崖崩れの可能性有り。
- ⑧ グラウンドからの逃げ道が2カ所（校舎方面・鶴高グラウンド方面）
- ⑨ 備蓄品をまとめて置く場所がない。

## （2）成果

- ①入り口を一カ所だけでなく、横のドアも入り口として考えた。（7月の避難訓練で実施）
- ②夏季休業中職員研修において「災害時車いす避難訓練」を実施。大分東消防署の方に来校いただき、安全な車いすの持ち方についての研修を行った。
- ③7月の避難訓練で二次避難場所を3カ所設定し、混乱を避けた。
- ④7月の避難訓練で、高等部は、体育館及び教室を二次避難場所として使った。
- ⑤検討した結果、置き場所等の問題も含め現状維持の方向
- ⑥7月の避難訓練では、混乱は起きず、ゆずりあって避難ができた。
- ⑦崖崩れを確認し、なるべく崖側に集合しないように配慮した。
- ⑧大分リハビリテーション病院様と協議中
- ⑩ 小・中・高それぞれの場所に分けて置いている。

## 2. 備品面

### （1）現状

- ① 防災ずきんの備えがない
- ② 避難訓練本部セットがない
- ③ 避難訓練の際の旗・ビブスなどがない。



### （2）成果

- ①小・中学部・・・夏季休業中に保護者に作成を依頼  
高等部・・・家庭科の授業で生徒が防災ずきん作りをする
- ②・③7月の避難訓練で完備

## 3. 体制面

### （1）現状

- ① 危機管理マニュアルの再考が必要
- ② 権限委譲の徹底
- ③ 教職員の防災に対する意識喚起
- ④ 避難訓練時の救護の場所の確保（移動保健室）

- ⑤ 避難訓練の流れを再検討
- ⑥ 地域の方々との協力体制
- ⑦ 大分リハビリテーション様との連携
- ⑧ 医療的ケアの児童生徒の対応
- ⑨ 児童・生徒の薬の調剤
- ⑩ 要援護者登録
- ⑪ 災害時伝言ダイヤルの周知
- ⑫ 備蓄品の完備

## (2) 課題

- ① 大分支援学校独自の防災マニュアルを作成中
- ② 権限委譲しやすいように、アクションカードを作成。
- ③ 職員研修を夏休み 3 回 (①通学路ハザードマップ研修②スクールバス減災研修③災害時車いす避難訓練)、9 月に 1 回 (先進地視察報告) を行った。アンケートの結果、今後の教育活動に【活かせる・少し活かせる】の回答が 100%であった。
- ④ 7 月の避難訓練では、一次避難場所 (グラウンド) ではタープを張って、二次避難場所 (体育館) では、卓球台等を活用して区切りを作り、救護 (移動保健室) を確保できた。
- ⑤ 医ケアについては医ケア室で一次・二次避難を行った。
- ⑥ 7 月の避難訓練では、サプライズ (児童行方不明・てんかん発作の多発・生徒が避難困難・教師がけが) 等を盛り込み、緊張感のある避難訓練を行った。
- ⑦ 本校教頭が自治会長会議等に出席
- ⑧ 7 月の避難訓練では、医ケアについては医ケア室で一次・二次避難を行った。
- ⑨ 学校近くの九州調剤薬局様に履歴を作ることを保護者に呼びかけた。
- ⑩ 保護者に登録を呼びかける
- ⑪ 2 学期中に保護者に周知を図る予定
- ⑫ 児童生徒の個人の備蓄品はほぼ揃っている。今年度より、1 年保管と学期保管の 2 パターンに分け、非常食を購入しやすいように配慮した。

## 4 課題

- ・児童生徒及び教職員の防災ずきんやパソコンカート固定、備蓄品の置き場など、予算が伴う課題が多い。→数年をかけて準備していくことが重要
- ・地域の方々とのどのように連携していくかが課題。

## IV 来年度の取り組み

1. 防災の授業を年間指導計画に位置づけ、引き続き、防災教育を行っていく。
2. 小学部・中学部・高等部の系統性を持たせた授業の実施計画を作成する。

3. 避難訓練の実施方法の見直しを行う。